



# 宮田中だより 2021年3月号

電話 045-331-5288



## 「卒業おめでとう」～進路は続くよどこまでも～

校長 上原 浩

赤学年（3年生）の皆さん、それぞれの進路へ向けての闘いお疲れ様でした。力は発揮できましたか？面接では思いを伝えることができましたか？交通機関のトラブルもありました。これまでの人生の中で最も緊張したという人も多かったことでしょう。結果はどうであっても、今回経験したこと全てが皆さんのこれからの人生の「糧」となります。

宮田中での生活も残りわずかとなりました。言うまでもなく、この1年間は新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。以前の状態にもどるにはもうしばらくかかりそうです。やりたかったけれどできなかったこと、止められてしまったことがたくさんありました。宮田中平和学習の総決算である「長崎修学旅行」を実施できなかったことも心残りではありません。しかし、コロナ禍だからこそ考えさせられたこと、考えなければならなかったこと、気が付いた大切なこともたくさんあったのではないのでしょうか。それらも必ずや今後の長い人生のプラスになるはずです。



話は変わりますが、日本のプロ野球のチーム名は大抵、親会社の名前が冠せられています。プロ野球発足時は鉄道会社や新聞社が多く、映画、製造、食品、金融、IT企業、通信会社も関わってきました。親会社が変わっていないのは、巨人（読売新聞）、阪神（阪神電鉄）、中日（中日新聞）の3チームのみです（多くは複数の会社や個人が保有するようです）。地元「横浜 DeNA ベイスターズ（DeNA・IT企業）」は、「大洋ホエールズ（現マルハニチロ・食品）」が「松竹ロビンス（松竹・映画）」と合併し、「横浜ベイスターズ（TBS・TVラジオ局）」を経て現在に至っています。2004年には「近鉄（近畿日本鉄道）」と「阪急（阪急鉄道）→オリックス（オリックス・金融）」が合併して「オリックス・バファローズ」となり、パリーグの球団が1チーム減りそうになりましたが、新たに「楽天（楽天・IT企業）」が創立されました。社会生活の変容や技術革新による新しい業種の会社の誕生と急成長、経営方針の転換などでプロ野球のチーム名が変遷してきたのでしょうか（本拠地も変わっているチームも多くあります）。

現代の社会は変化する速さも大きさもより増大しています。10年程前から「子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く（ニューヨーク市立大キャシー・デビッドソン）」や「今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い（オックスフォード大マイケル・オズボーン）」という予測がよく引用されてきました。赤学年の皆さんが社会に出る頃には思いもよらない名前の野球チームが生まれているかも知れません。一方、今回のコロナ禍で注目された医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーは、今後も欠かすことができない存在です。身の回りの衣食住すべても日々多くの人の労力に支えられています。卒業生の皆さんは10年後、どんな仕事に就いているのでしょうか？今は、義務教育修了後の進路先が決まり「ほっと一息」についている人が多いことでしょう。これからどんなことに挑戦したいか？どんな職業を目指すか？どんな人生を過ごしたいか？どんな夢を描くか？自分にとって「大切なもの」を探し続けてください。「仕事・職業」は進路の一部であり、進路（生き方）を考えていくことは生涯続きます。私自身もこれからの進路を考え続けていきます。



### 〈参考〉宮中生の「こんな仕事がしたい」～「創立70周年アンケート」回答より～

何かを作る仕事、音楽関係の仕事、電気関係の仕事、動物関係の仕事、  
親の仕事を継ぐ、医療関係の仕事、プロ野球関係の仕事、ディズニー関係の仕事、  
陸上関係の仕事、人の役に立つ仕事、スポーツ関係の仕事、趣味を生かせる仕事、  
社会にかかわる仕事、洗い物の仕事、美術系の仕事、カフェを開く、  
服飾関係の仕事、子どもにかかわる仕事、英語にかかわる仕事、  
海外にかかわる仕事、イラスト関係の仕事、楽な仕事、人を笑顔にする仕事 等々

## 国際平和募金



コロナ禍、今年の募金活動は難しいと考えていましたが、福祉委員会の生徒から「校内だけでもやりたい」という声があがりました。密を避けるため、昼休みに各階ホールでの活動でしたが、宮田の伝統は確実に引き継がれました。

例年は、登校時の校舎内で生徒へ呼びかけ、放課後は松原商店街などでSSW(シンガー-ソングライター部)の協力を得ながら道行く人に協力をお願いしています。来年は外でできるといいですね。

☆ユニセフ (UNICEF: United Nations Children's Fund 国連児童基金) は、世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。その活動資金は、すべて個人や企業・団体・各国政府からの募金や任意拠出金でまかなわれています。

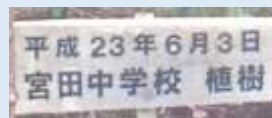
## 三年生へメッセージ ~三送会に代わって~

今年は体育館に集まった「三年生を送る会」は開催できず、1年学代、2年学代、生徒会企画の映像とメッセージカードを贈ることになりました。新生徒会役員も今できることを探して工夫しながら宮田中職員を巻き込み、少しでも卒業生に楽しんでもらおうと頑張りました。メッセージカードは3年生の皆さんに読んでもらえるように1階に展示します。他にも美術部の協力の元、黒板アートと誕生日新聞のプレゼントがあります。3年生の皆さんへ感謝の気持ちを込めて準備しました。1・2年生の「愛」を受け取ってください!



## 『先輩の足跡発見』 ~ 道志村 ~

鎌谷町にお住いの金子正美さん(浅間台小大地の会会長、宮田中卒業生)から1枚の写真をいただきました。宮田中が里山体験学習で訪れている道志村は山梨県にあり、村の総面積の1/3以上が横浜市所有の「水源涵養林」となっています。金子さんはそこでボランティアとして間伐作業をされている時に、偶然「平成23年6月3日宮田中学校植樹」という標識を見つけたとのこと。先輩が見つけた先輩の足跡。植樹した時には30cmほどのヒノキが今では5mを超えているそうです。今年も宮田の子どもたちが道志村に行けることを願っています。



## 今後の予定について

令和2年度ほど行事予定が二転三転した年はありませんでした。「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が延長される気配も漂ってきました。本当に、最後の最後まで不安を抱えたままで年度末を迎えようとしています。子どもたちは、様々な教育活動、特に行事の準備・当日・事後の振り返りを通して多くを学び成長していきます。工夫しながら行事を実施したいと思う一方、子どもたちの安全は優先しなければなりません。「〇月〇日までに〇〇が解除されない時は~する。」というような難しい判断を今後も続けていかなければなりません。もうしばらく、年度途中に予定を変更しなければならないことが予想されます。保護者の皆様にはその都度連絡いたしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

保護者・地域の皆様、一年間、宮田の子どもたちを見守り、ご支援いただき誠にありがとうございました。引き続きよろしくごお願い申し上げます。

